

1 単元について

対 象 学 年	中学校第2学年
学 習 指 導 要 領	歴史的分野の内容（5）工
単 元 名	「わが国の近代産業の発展」（全5時間）
単 元 目 標	<p>我が国の近代産業の発展とそこでの国民生活の変化、文化に対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。 （社会的事象への関心・意欲・態度）</p> <p>我が国の近代産業の発展とそこでの国民生活の変化及び近代文化の形成と文化の大衆化を多面的・多角的に考察することができる。 （社会的な思考・判断）</p> <p>我が国の近代産業の発展とそこでの国民生活の変化、文化に関する文献、統計・グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり説明したりすることができる。 （資料活用の技能・表現）</p> <p>我が国の近代産業の発展とそこでの国民生活の変化を理解するとともに近代文化の形成と文化の大衆化に気付く。 （社会的事象についての知識・理解）</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 単元指導計画作成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容（5）イウ工を大単元と捉え、大単元を通して考える課題を「日本はどのようにして国力を高めていったのか」とし、生徒の追究の視点ごとに整理して、小単元を構成した。本単元は、内容（5）工を小単元として扱い、小単元の終末には、大単元を通して考える課題について産業と国民生活、文化の面でまとめる場を位置付けた。 ・近代産業の発展とそこでの国民の生活の変化を具体的にとらえさせるとともに、地域の歴史への関心を高めるために、「河合村の政井みねさんをはじめ、飛騨の農村の娘達が野麦峠を越えて製糸工場へ働きに出ていた」という事象を取り上げ、その意味を追究する学習を位置付けた。 ・近代文化の形成や文化の大衆化については、個の興味・関心に応じて、科学、文学、芸術の分野別の小集団で、資料を収集・選択・活用して追究する場を位置付けた。 <p>単位時間における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つかむ」過程で映画「あゝ野麦峠」の一場面を提示し、製糸工場へと向かう行程や農村の様子、製糸工場での労働の様子などが映像から具体的にとらえやすいようにして、必然性のある課題が生まれるようにした。 ・農村の変化の背景に地租改正や資本主義経済の発達があったことをとらえさせるために、「追究する」過程で「江戸時代のように自給自足を続ければ娘達は厳しい労働をしなくてもよかったのではないか」と問い返し、集団で思考を深める場を位置付けた。
参 考 資 料	<p>資料1 工女の生活 資料2 映画「あゝ野麦峠」 資料3 工場との契約書 資料4 女工小唄 資料5 農民のくらしの変化 資料6 小作農の家計と地主の収入 資料7 100円工女</p> <p>ここでは、第3時に活用する資料のうち、映像以外の資料を掲載している。従って資料3は本資料に掲載していない。なお資料番号は、「3指導と評価の計画」や「4単位時間の授業展開例」で表記した番号を示している。</p>

2 単元の評価規準

	ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・ 判断	ウ 資料活用 of 技能 ・表現	エ 社会的事象につ いての知識・理解
内 容 の ご ま と の ま 評 り 価 規 準	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し、国際協調の精神を養い国民としての自覚をもとうとする。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きから課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きに関する様々な資料を収集し、適切に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	我が国の近現代の歴史とそれにかかわる世界の動きを理解し、その知識を身に付けている。
単 元 の 評 価 規 準	我が国の近代産業の発展とその中での国民生活の変化、文化に対する関心を高め意欲的に追究している。	我が国の近代産業の発展とその中での国民生活の変化及び近代文化の形成と文化の大衆化を多面的・多角的に考察している。	我が国の近代産業の発展とその中での国民生活の変化、文化に関する文献、映像、統計・グラフなどの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究し考察した結果をまとめたり、説明したりしている。	我が国の近代産業の発展とその中での国民生活の変化を理解するとともに、近代文化の形成と文化の大衆化に気付き、その知識を身に付けている。
学 習 活 動 に お け る 具 体 の 	我が国の近代産業の発展とその中での国民生活の変化、文化に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	我が国の近代産業の発展やその中での労働者の生活の変化について、政府の政策、財閥の発達、労働者の労働の様子から考察している。 我が国の近代産業の発展の中での農民の生活の変化について、資本主義経済の発達や農村の階層分化と小作農などの貧窮化の側面から考察している。 我が国の近代文化の形成と文化の大衆化を政府の政策や学校教育の普及の側面から考察している。	我が国の近代産業の発展とその中での労働者の生活の変化を統計・グラフや文献など様々な資料を適切に活用して追究している。 我が国の近代文化の形成について、文献などの資料を収集し適切に選択活用して調べ、その結果を資料を用いて説明している。	我が国の近代産業の発展とその中での国民生活の変化について理解し、その知識を身に付けている。 政府の政策や教育の普及によって、我が国の近代文化が形成され、文化の大衆化が進んだことに気付き、その知識を身に付けている。

3 指導と評価の計画（全5時間）

(1) 授業の流れ

- 第1次 近代産業の発展 (1時間)
- 第2次 近代産業の発展と国民生活の変化 (2時間)
- 第3次 近代文化の形成 (2時間)

(2) 単元指導計画

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	我が国の近代産業の発展やその中での国民生活の変化、文化に対する関心を高め、追究意欲をもつ。	<p>大単元を通して考える課題を確認し、この小単元では、産業や国民生活、文化の面で 課題を追究することを 知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【大単元を通して考える課題】 日本はどのようにして国力を高めていったのか。</p> </div> <p>日本の産業革命と言われる工業の発達について調べわかったことや思ったことを交流する。</p> <p>資料 : 日本の各産業の発達と貿易 欧米諸国の産業革命の学習から、どんな変化があったか想起し、日本における国民生活の変化や文化について予想を交流し、小単元を通して考える課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【小単元を通して考える課題】 日清・日露戦争の頃に急速に産業が発展したのはなぜか。人々の生活や文化はどのようにかわっただろうか。</p> </div>	ア - 我が国の近代産業の発展とその中での国民生活の変化、文化に対する関心を高め意欲的に追究しようとしている。	<p>発言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業の急速な発展やその影響についてどんな疑問や予想をもっているかを分析する。 	<p>1890年から1900年の10年間に綿糸の生産量が約8倍になっている事実に着目させ、感想を問う。欧米諸国の産業革命後の生活の変化や文化の発達について、想起するよう促し、同じようなことが日本でも起こったのだろうかと問う。</p>
2	我が国の急速な産業の発展とその中での労働者の生活の変化について、政府の政策、財閥、労働者などの様子から調べ、それらを理解することができる。	<p>本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日清・日露戦争の頃に急速に産業が発展したのはなぜか。また人々の生活はどのように変化したか。</p> </div> <p>予想を交流し、資料を選択して調べ交流する。</p> <p>資料 : 八幡製鉄所と軍需産業の発達 資料 : 民間に払い下げられた製糸・紡績工場 資料 : 財閥の形成 資料 : 工場での労働時間と労働の様子 資料 : 労働争議件数の移り変わり</p>	ウ - 我が国の近代産業の発展とその中での労働者の生活の変化を統計・グラフや文献など様々な資料を適切に活用して追究している。	<p>学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から自分の予想を検証する内容を見つけて、考えを書くことができているかを発表しているかを分析する。 	<p>個の予想を確認し、「その予想を検証するにはどんな事実が見つかればよいか」「その事実が得られそうな資料はどれか」を問い適切な資料選択を促すとともに資料をみる視点を明確にする。</p>

		<p>本時の学習をまとめ、自己評価をする。</p>	<p>イ - 我が国の近代産業の発展やその中での労働者の生活の変化について、政府の政策、財閥の発達、労働者の労働の様子の側面から考察している。</p>	<p>学習ノート 発言内容 ・政府の政策や財閥の発達がどのように産業の発達につながるのか、また産業の発達の結果労働者にどんな影響を与えたかを考察しているかを分析する。</p>	<p>個がとらえた事実を確認し、その事実が我が国の産業の急速な発達にどのようにつながっていくのかを考えるよう促す。事実をとらえることができない生徒には、日清・日露戦争の頃の出来事に着目するよう促す。</p>
3 本 時	<p>飛騨の農村の娘達が製糸工場に働きに出たわけを、資本主義経済の発達、農村の階層分化、小作農などの貧窮化の側面から考察することを通して、近代産業が発展する中で農民の生活が変化したことに気付く。</p>	<p>製糸工場で働いていた飛騨の農村の娘たちの様子から課題をつくる。 資料1：工女の生活 資料2：映画「あゝ野麦峠」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>工場での労働や生活は厳しいのに、飛騨の娘たちはなぜ厳しい野麦峠を越えて働きに出るのか。</p> </div> <p>工場での生活や労働の様子、農村の生活の様子の視点から予想し、課題解決のために必要な資料を選択し、活用して追究する。 資料3：工場との契約書 資料4：女工小唄 資料5：農村のくらしと変化 資料6：小作農の家計と地主の収入 資料7：100円工女 「江戸時代のように自給自足をしていけば娘達が厳しい労働をしなくてもよかったのではないか」という問いについて考え交流する。 政井みねさんが兄に担がれて工場を去るときに合掌をした意味について考え交流する。 資料8：合掌するみねさん(映画「あ</p>	<p>イ - 我が国の近代産業の発展の中で農民の生活の変化について、資本主義経済の発達や農村の階層分化と小作農などの貧窮化などの側面から、考察している。</p>	<p>学習ノート 発言内容 ・資本主義経済の発達と農村の階層分化、小作農などの貧窮化についてとらえた具体的事実から農村の変化を考察しているかを分析する。</p>	<p>年貢と地租との違いや必要な物資の生産方法、入手方法の違いを想起させるとともに、その結果農村の生活がどう変わるかを考えるように促す。</p>

		<p>「野麦峠」)</p> <p>本時と前時の学習を関連付けてまとめ、自己評価をする。</p>	<p>エ -</p> <p>我が国の近代産業の発展とその中で国民生活の変化について理解し、その知識を身に付けている。</p>	<p>学習ノート</p> <p>・近代産業や経済が発展する一方で、国民の貧富の差が拡大したり労働問題が起きたりしていることなどをとらえているか分析する。</p>	<p>板書や前時の学習ノートへの記述を示し近代産業の発展によってよかったこととそうでないことをまとめるよう促す。</p>
4	<p>明治期に活躍した科学者、文学者、芸術家の業績について、文献、写真などの資料を収集選択して調べ、資料を用いて説明することができる。</p>	<p>次の人物について知っていることを交流するとともにエピソードを知る。</p> <p>資料 北里柴三郎と夏目漱石の写真</p> <p>明治期に活躍した科学、文学、芸術の分野で活躍した人物を見て、調べたいことを交流する。</p> <p>資料 : 明治期に活躍した人物</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>明治期に活躍した科学者・文学者・芸術家はどんな作品や業績を残したのだろうか。</p> </div> <p>調べたい人物を選択し分野別グループで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学グループ ・文学グループ ・芸術グループ <p>調べたことを資料を用いて発表する。</p> <p>発表を聞いて分かったことや思ったことをまとめ、自己評価をする。</p>	<p>ウ -</p> <p>我が国の近代文化の形成について文献などの資料を収集し適切に選択・活用して調べ、その結果を資料を用いて説明している。</p>	<p>学習ノート</p> <p>発言内容</p> <p>・選択した人物にかかわる適切な資料を収集し、作品や業績に関する事実を具体的にとらえ、資料を用いてわかりやすく説明しているか分析する。</p>	<p>科学の業績については、現代の生活とのつながりを明確にするよう促すことによって具体的にとらえることができるようにする。</p> <p>文学や芸術については、作品を実際に示して説明するよう促す。</p>
5	<p>明治期に国際的</p>	<p>前時の発表を聞いてわかったこと、</p>			

<p>に評価されるほど科学、文学、芸術面で多くの人が活躍したわけを、政府の政策と学校教育の普及などの面から追究し、近代文化の形成と文化の大衆化に気付く。</p>	<p>思ったことを交流し課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>明治期に国際的に評価されるほど、科学、文学、芸術面で多くの人が活躍したのはなぜだろう。</p> </div> <p>予想を交流し、政府の政策や学校教育の普及について調べ交流する。 資料：日本の自然科学発達の背景 資料：学校教育の普及 資料：就学率の変化</p> <p>本時の学習をまとめ、自己評価をする。</p> <p>小単元を通して考える課題と大単元を通して考える課題について産業や国民生活、文化の面からまとめる。</p>	<p>イ - 我が国の近代文化の形成と文化の大衆化を政府の政策や学校教育の普及の側面から考察している。</p> <p>エ - 政府の政策や教育の普及によって、我が国の近代文化が形成され、文化の大衆化が進んだことに気づき、その知識を身に付けている。</p>	<p>学習ノート 発言内容 ・政府の政策や学校教育の普及と国際的に評価されるほど多くの人が活躍することに関連付けて考えているか分析する。</p> <p>学習ノート ・政府の政策や教育の普及と科学・文学・芸術の面での文化の形成や文化の大衆化とのかかわりを明確にとらえているか分析する。</p>	<p>「諸外国に留学生を派遣することによってどんな成果が考えられるか」「就学率が上がるとどんな影響があるか」と問うことで、国際的に評価されるほど活躍する人が登場する理由を考えることができるようにする。</p> <p>政府の政策や教育の普及と科学・文学・芸術面での文化の形成や文化の大衆化とのかかわりを明確にとらえている生徒の記述例を紹介し価値付ける。</p>
--	--	---	--	---

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

- ・飛騨の農村の娘達が製糸工場に働きに出たわけを、資本主義経済の発達、農村の階層分化や小作農などの貧窮化の側面から考察することを通して、近代産業が発展する中で農民をはじめ国民の生活が変化したことを理解する。

(2) 本時の位置

3 / 5 時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
つ か む	<p>製糸工場で働いていた飛騨の農村の娘達の様子から課題をつくる。</p> <p>資料1：工女の生活 資料2：映画「あゝ野麦峠」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝早くから夜遅くまで安い賃金で働かされるんだな。 ・何人も同じ部屋で病気になりやすい。 ・とても苦しそうだ。私にはできない ・どうして、わざわざ厳しい峠を越えて製糸工場へ行くのか分からない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>工場での労働や生活は厳しいのに、飛騨の農村の娘達は、なぜ野麦峠を越えて働きに出るのか。</p> </div> <p>工場での労働の様子、農村の生活の様子などの視点から予想し、交流する。</p>	<p>イ - 我が国の近代産業の発展の中での農民の生活の変化について、資本主義経済の発達や農村の階層分化、小作農などの貧窮化の側面から考察している。</p> <p>発言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の近代産業の発展の中での農村の生活の変化に対する関心が高まり、意欲的に追究しようとしているか分析する。 <p>イ - 学習ノートへの記述、発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の農村の様子と比較したり地租改正などの既習事項と関連付けたりして予想しているかどうか分析する。 	<p>野麦峠を越えて岡谷に至るまでの厳しさと工場労働の厳しさが実感として理解できるよう映画「あゝ野麦峠」の一場面を一時停止して提示し「あなたが飛騨の娘ならどうするか？」と問うことで関心を高める。</p> <p>「野麦峠を越える場面」 「長時間労働の場面」</p> <p>江戸時代の農村の様子と地租改正を想起させ、両者を比較して製糸工場へ働きに出るわけを予想するよう促す。</p>
追 究	<p>予想に基づいて、課題解決に必要な資料を選択し、活用して調べ交流する。</p> <p>資料3：工場との契約書 資料4：女工小唄 資料5：農村のくらしの変化 資料6：小作農の家計と地主の収入 資料7：100円工女</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村の家族が喜んでくれるから、一生懸命に働いたんだ ・労賃を入れても、毎年16円の赤字が積み重なっていく。労賃がなければ、毎年約34円の赤字で借金をすることになる。苦しい家族を養うためには仕方がなかった。 ・自分の給料で土地を買い戻した 	<p>イ - 学習ノートへの記述、発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択した資料から、小作農などの貧窮化を具体的にとらえ、それらの事実に基づき飛騨の農村の娘が製糸工場へ働きに出たわけを考えているかどうか分析する。 	<p>「小作農の家計と地主の収入」の資料を指し示し、「工女の労賃がなかったら小作農の家計はどうなるか」と問うことにより、農村の小作農などの貧窮化の様子を具体的にとらえることができるようにする。</p>

<p>す る</p>	<p>り、借金を返したりすることができるよう少しでも家族を喜ばせたいと考えたのではないか。</p> <p>「江戸時代のように自給自足をしていれば、娘達が厳しい労働をしなくてもよかったのではないか」という問いについて考え交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治維新以降、地租改正により毎年地租を金納しなければならなくなったし、資本主義経済の発達により、商品作物を栽培するための肥料や生活に必要な物資を買うことによって支出が増え、自給自足では生きてはいけなくなったんだ。貧しい農家は土地を手放したり借金をしたりしてますます貧しくなっていく。 <p>政井みねさんが、兄に担がれて工場を去るときに合掌をした意味について考える。</p> <p>資料8：合掌するみね(映画「あゝ野麦峠」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精一杯働いてきて、家族を少しでも楽にできたことに対して感謝している。より豊かに生きるために一生懸命に生きたんだな。 	<p>イ - 学習ノートへの記述・発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済の発達によって、生産や生活に必要な物資を購入せざるを得なくなっていることをとらえ、農村の階層分化が進んでいくことを、考察しているかどうかを分析する。 	<p>これまで自分たちで生産していた生産や生活に必要な物資が、工場で生産されるようになると、入手方法がどのように変わるか考えさせ、現金収入の少ない農家はどうか考えるよう促す。</p> <p>明治時代後半の変化の中で、より豊かな生活をめざして一生懸命に生き抜いた人々の姿に共感する姿を価値付ける。</p>
<p>ま と め る</p>	<p>本時と前時の学習を関連付けてまとめ、自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代産業が発展する中で、農村では地主と小作農の貧富の差が拡大し、小作農の娘達は家族の生活を少しでも助けようと工場へ働きに出たんだな。 ・明治政府の政策が実り、産業や経済が発展したことで、生活が向上したが、その一方で国民の貧富の差を拡大したり労働問題を引き起こしたりしたこともあった。そうした変化の中でより豊かな生活をしようと懸命に生きたみねさん達はすごいな。 	<p>エ - 我が国の近代産業の発展とそこでの国民生活の変化について理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>学習ノートへの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業や経済が発展し生活が向上する一方で、国民の貧富の差が拡大したり、労働問題が起きたりしたことなどをとらえているか分析する。 	<p>板書や前時、本時のノート記述をもとに近代産業の発展によってよくなったことやそうでないことをまとめるよう促す。</p>

5 評価の実際と個に応じた指導事例

本時の評価と、個に応じた指導の事例を以下のようにまとめた。

「学習活動における具体の評価規準」に照らして、「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童（生徒）の具体的な状況例、及び「努力を要する」状況（C）と判断した児童（生徒）がいる場合の指導の指導の具体的な手だてを示している。

授業展開の中で、「学習活動における具体の評価規準」に照らして、個の学習状況を把握することに努める。その際、「努力を要する」状況と判断した児童（生徒）に対して、学習状況に応じた指導の手だてを講じて、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。それとあわせて、「十分満足できる」状況と判断できる児童（生徒）の姿が実現されることをめざして、指導・援助に努めていく。

【社会的な思考・判断】

学習活動における 具体の評価規準	「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手だて
<p><イ - > 我が国の近代産業の発展の中での農民の生活の変化について、資本主義経済の発達や農村の階層分化、小作農などの貧窮化の側面から考察している。</p>	<p>ノートの記述や発言の内容から、農民の生活が変化したことを、資本主義経済が発達し生産や生活に必要な物資を金銭で購入する必要が生じたことやそれにより、農村の階層分化や小作農などの貧窮化が進んだことなどから考察している。さらには、明治維新の地租改正と併せて考察したり、日清・日露戦争の勝利による国際的な地位の向上と比べて考察したりしていることが判断できた。</p>	<p>「小作農の家計と地主の家計」の資料を指し示し、「工女の労賃がなかったら小作農の家計はどうなるか」と問うことにより、農村の小作農の貧窮化の面から考察できるようにする。 これまで自分たちで生産していた生産や生活に必要な物資や新たに用いるようになった物資が工場で生産されるようになると、入手方法がどのように変わるか考えるよう促すとともに「現金収入の少ない農家はどうするのか」と問い、資本主義経済の発達と農村の階層分化の面から考察できるようにする。</p>

6 参考資料

資料1 工女の生活

12歳から約10年間下諏訪の製糸工場で働いた1899(明治32)年生まれの老女が語ってくれた話。

「工場の中では、100人工女がいると、50人ずつ2列、200人では4列になって働いた。せまい上、まゆを煮る頃には、部屋の中が湯気でモウモウとしている。着るものなどはびしょりになってしまう。頭もびしょりになり、寒いときには、それが凍り、頭からつらが下がった。昼はそういうことはなかったが、夜なべや朝早くの仕事をすると凍ってしまった。着物も1日に2度、3度と取り替えなければびしょびしょになる。働き着は、さなぎのにおいがしみこんでいて、いくら着替えても臭かった。すれちがえば、すぐに工女と分かった。

夏は、朝5時に起きた。着物を着て、髪を結び、食事をして、6時から仕事が始まった。明治の終わりから、最高15~16時間働いた。休憩は、昼の30分。10分でご飯を食べても、30分はすぐに終わってしまい、機械が回転し出す。だから、食事が終わるとすぐに便所に駆け込んだ。便所からも早く飛び出す。早飯や便所の早い習慣がついて今も抜けない。夕食も30分。その後も作業につき、終わるのは夜の9時と決まっていた。

上諏訪や飛騨など、よそから来ている人たちは、宿舎にいた。汚い宿舎に雑魚寝。山十組なら、山十組の印のあるせんべい布団に寝た。以前に結核の人が寝ていた布団にまた寝るので、結核が伝染した。かぜをひいても、会社の目がうるさかったから、休むわけにいかず、病気に耐えられないで自殺した人もいた。

工場とは、5円くらいで1年契約を結んだ。5円あれば1ヶ月はくらせた。1年して、他の工場へ行くこともあった。検番(工女の仲介人)が、よその工場から工女を引き抜いてきた。検番は、みな紺がすりの着物を着ていたが、こわかった。まゆから取った糸の「より」のかけ方が少ないと、作業中にまわってきて、さっと糸を切ってしまう。また、糸の結び目がたくさんあるへぼ糸だと、西洋人の靴下にはならないし、機械に引っかかりすぐに糸が切れてしまう。すると、検番が工女を引きずり出して、大勢のいる前で、たたいたりした。かわいそうで目を背けた。

糸引きの作業は難しかった。細ければ細いほど、いいというものではなく、糸目という目方が平均していないとだめだった。目方が足りなくて、だめな糸をつくると、給料が引かれる罰があった。だから、何年やっても不器用な人は給料が低いし、上手な人は100円工女にもなれた。そのころ100円あれば立派な家が建てられた。」(「日本の歴史5」ホルブ出版)

資料2 映画「あゝ野麦峠」(本資料には掲載無し)

資料3 工場との契約書

今回あなた様の製糸場へ、明治26年6月6日より、12月の間、私の娘つねを繰糸工女として、就業することの契約が整い、証拠金として金1円を確かに受け取りました。(中略)万一、違約したり、あなた様にご迷惑をおかけした場合、諸費用はもちろんのこと、損害金として、20円をいつでも、あなた様のご請求下さい。弁償します。(「岡谷蚕糸博物館蔵」)

資料4 女工小唄

かこの鳥より監獄よりも 寄宿住まいはなおつらい
工場は地獄よ主任が鬼で まわる運転火の車
工場づとめは監獄づとめ 金のくさりがないばかり
宿舎流れて工場は焼けて 門番コレラで死ねばよい
ここを抜け出す翼がほしや せめて向こうの陸までも
うれし涙を茶碗にうけて 親に酒だと飲ませたい
飛騨を出るときや 涙で出たが 今じゃ飛騨の風もいや

(山本茂実「あゝ野麦峠」朝日新聞社 細井和喜蔵「女工哀史」岩波文庫)

資料5 農民のくらしの変化

農村のくらしの変化

【1860年ごろ】

衣：ふだんはたけの短い着物。たびは正月くらい。

食：くず米に雑穀や野菜をまぜた。

住：たたみはほとんど使わない。明かりはあんどん。

【1900年ごろ】

衣：たけの長い着物を着る。羽織や晴れ着、たびを持つようになった。

食：米の飯が多くなった。

住：半分以上の家がたたみをしく。ランプが多くなった。

飛騨の農民のくらし

朝暗いうちから、10時11時まで夜なべをしなければ、・・・ヒエ飯にさえありつかなかつた。板谷ゆう（1880年生まれ）の話はそういう事情をよく物語っている。

「ワシは、百姓が忙しくて、ついに（野麦峠を越えて岡谷の製糸工場へ）糸引きに出してもらえませんでした。仲間のいない村で山に小屋をかけ、ナギ畑（山を焼いてつくった原始的な畑）をつくり、そこでヒエ、アワをとりました。今でも毎日山で働いています。大きな木を切り倒して、火をつけ、畑を作ります。馬草を背負っても、ヒエを背負っても、ワシは男に負けまいと働きました。米1俵とうどん粉1箱を背負って、雪の深い山道を2里（約8キロ）も登ったこともあります。ナギ畑への道は、雪が腰までもありました。」（山本茂実「ああ野麦峠」）

資料6 小作農の家計と地主の収入

小作農の家計 1899年

支出 319円	小作料 34.8% 111円	家計費 48.3	その他 16.9
	その他には、購入肥料7.5% 雑費 6.9 赤字 負債利子1.3 諸負担1.2 16円		

収入 303円	米その他の農業収入 86.5% 262円	労賃 6.6	その他 6.9
------------	----------------------------	-----------	------------

（「近代日本経済史要覧」）

地主大原家の収入 1905年

12万 4023円	小作料収入 54.1% 6万7000円	株式配当 36.1 4万5000円	その他 9.8
	倉敷紡績・山陽鉄道・倉敷銀行などの株主となっている。 2万2000円		

税金 18.1

（「日本歴史大系」）

（資料6 解説）

資本主義経済の発達によって、農村でも商品の購入や農作物の販売が増えました。重い地租と肥料・日用品の購入のため、多くの農家では現金支出がかさんで土地を手放すようになり、明治の末には小作地が全耕地の45%をこえました。地主は収穫高の半分もの小作料を取り、特に大地主は資金を銀行や会社に投資して経済力をたくわえ、国会議員になる者も出るなど、農村に大きな力をふるいました。

小作農民の子どものなかには、都市に出て労働者となり、貧しい生活を送る者が増えました。そして、人口が流入する都市では、貧困や衛生の問題が深刻になりました。

資料7 100円工女

当時、実際に働きに行ってみえた明治生まれの人達に話を聞いてみました。

「雪が降ってくりゃ、野麦峠には銭が降ると思って行け。と親にいわれたんやぜな」（明治15年生）
「13のとき、岡谷の山共製糸といとこへ7年契約で入ってな。姉4人といっしょで、姉はみんな百円工女やったもんで、オリ（私）も負けんように働いたもんやさ。みんなで稼いだ銭で、ツオツアマ（お父さん）は毎年田んぼを買いなたと思うんやさ。たしか、あのころ1反（10アール）で100円か150円くらいやと思うけどな」（明治24年生）

「岡谷の大和製糸へ14のときから8年の間、野麦峠を越えて通ったんやぜな。入ったときゃ10円、2年目は25円、3年目には45円、8年目にはたしか95円ももらったと思うけどな。そのほかに、賞与として1円、2円、3円、5円などを毎年ちょっとずつもらったんやさ」（明治31年生）

以上の話しでもわかるように、1年間働いて100円もらえる人は優秀な人で、だれでも1日も早く100円工女になれることを願っていました。（「郷土古川」）